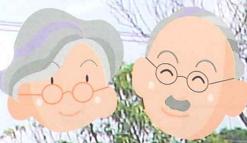




シルバーだより もとみや



粘り強い東北
がんばつへ福島



5号

みずいろ公園ボランティア

■発行日／平成23年7月1日

■発行所／社団法人本宮市シルバー人材センター

■住 所／本宮市本宮字太郎丸112-3

■電 話／0243-34-5226

平成23年度事業計画

平成22年度 事業報告書

I 事業活動方針
わが国の経済は、一部業種には緩やかな回復の兆しがみられるものの、地域においては、大幅な需要不足によるデフレの深刻化、円高の長期化など、これまで経験したことのない深刻な経済活動の停滞に直面しています。県内の経済情勢は、持ち直しの動きがみられるものの、なお厳しい状況にまで経済活動の停滞に直面しています。団塊の世代が、定年を迎える高齢者が、社会の担い手として意欲と能力がある限り活躍し続ける社会が求められています。このような状況から、多様な人材を抱えるシルバー人材センターのより一層の事業推進が求められています。

II 事業計画の目標
事業活性化計画に基づき、会員加入額の向上、受注件数の増加による契約金額の向上のため、次の目標値を設定します。
III 事業実施計画
十項目の事業実施計画を進めます。
IV 安全就業の推進
安全委員会及び安全就業推進員による安全パトロールを実施し、作業現場の安全点検や機械器具の整理点検を行いました。

V 福利厚生事業
会員のための事業及び研修等一泊研修、日帰り研修の親睦を図りました。
VI 公益法人制度改革に伴う新制度への移行
公益法人制度改訂に伴う新制度へ

VII 労働者派遣事業の充実
一般労働者派遣事業に参入しました。契機に、より多くの派遣事業の拡大を図ります。
VIII 普及啓発活動の推進
センターの理念や趣旨普及を図るため、シルバーだよりを発行し、センターの存在意義を高めるよう普及・啓発活動の推進に努めます。

IX 公益法人制度改革に伴う新制度への移行

公益法人制度改革に伴い、公益社団法人への円滑な移行を目指します。

X 無料職業紹介事業への体制づくり
高齢者への無料職業紹介事業について、体制づくりに努めます。

I 事業報告
センターは、社団法人を設立し、県、市からの財政支援をいただき、会員相互の連帯と自覚により、事業運営の合理化に努め、会員と就業の拡大を図り、会員及び役員が一体となり事業の継続的な拡大・発展のため努力いたしました。事業運営に当たっては、「自主・自立」、「共働・共助」の基本理念のもと、会員自らが自主的活動を積極的に行い、地域住民のニーズに応えるべく事業を開拓してまいりました。また、事業項目別に目標を設定して事業を遂行いたしました。

II 事業項目別の成果
地域班及び職群班活動は、世話人・班長を中心、会員相互の交流並びに情報等を交換、事業への参加意識の高揚を図りました。

III 就業機会の開拓、会員増強の推進
企業訪問等を行い、就業機会の開拓に努めました。

IV 普及啓発活動の推進
ポームページの更新、会報シルバーニュースを発行し、普及・啓発活動の推進に努めました。

V 福利厚生事業

会員のための事業及び研修等一泊研修、日帰り研修の親睦を図りました。

VI 公益法人制度改革に伴う新制度への移行

公益法人制度改訂に伴う新制度へ

IX 公益法人制度改革に伴う新制度への移行

公益法人制度改革に伴い、公益社団法人への円滑な移行を目指します。

X 無料職業紹介事業への体制づくり
高齢者への無料職業紹介事業について、体制づくりに努めます。

第2期 事業活性化計画策定する

一 計画の目的

本宮市の高齢化率は、平成二十一年度の二二・三%から五年後の平成二十六年度は、二三・四%と「団塊の世代」が高年齢に加わり、平成二十七年度には、国民の四人に一人が六十五歳以上という、超高齢化社会が到来すると予測されます。高齢化率の上昇は、寝たきり、認知等介護が必要とする心身に支障を来す高齢者が増加する要因となります。

しかし、多くの高齢者は、元気で自立した生活を送っています。この元気な高齢者のため、安心していきいきとした生活と高齢者自ら住みよい地域社会づくりのための施策として、社会参加事業としてシルバー人材センターが一翼を担うことが大切であります。このような状況から、中期目標の事業活性化計画を策定いたしました。

二 計画期間

(一) 活性化計画の期間
平成二十三(2011)年度から平成二十六(2014)年度までの四年間
(二) 次期活性化計画の期間
平成二十七(2015)年度から平成三十(2018)年度までの四年間
(三) 活性化計画の目標
①会員加入の粗入会率一・〇〇%に上げる
②契約金額の向上
③配分金一人当たりの増額

計画の目標

事業活性化計画期間 平成23年度～平成26年度

項目	年度			
	H23(2011)	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)
1 会員数(人)	180	185	190	200
2 市内60歳以上の人口	9,402	9,570	9,630	9,960
3 粗入会率(%)	1.91	1.93	1.97	2.01
4 受注件数(件)	500	520	550	570
5 就業実人員(人)	173	178	182	192
6 就業延人員(人)	15,200	15,500	15,700	16,000
7 就業率(%)	96.00	96.00	96.00	96.00
8 契約金額(千円)	74,800	74,900	80,000	85,000
9 配分金合計額	68,800	68,900	73,600	78,200
10 1人当たりの就業実日数	87.8	87.0	86.2	83.3
11 1人当たりの配分金額(千円)	398	388	404	407

* 就業体制の強化
職群班の自主的就業の強化、地域相互の連帯強化、技能職種の強化
* 安全意識の向上、安全就業の習慣化、安全管理の強化
* 安全就業の実施
* 組織運営体制の強化
各委員会の充実と会員の自立、自主の意識改革
* 就業機会の開拓、拡大
* 職種別就業開拓、小規模業務の開拓

当センターの重点的取り組み課題は、次のとおりです
* 普及啓発活動の推進
シルバーだよりの発行、ホームページの更新、住民への情報提供
* 適正就業の推進
就業機会の均等化、就業の率の向上
* 普及啓発活動の推進
センター運営する意識改革を図り、より良い事業推進に努めてゆきます。

四 事業向上の目標と進め方

課題を達成するため、会員・役員一丸となつてセントラル運営する意識改革を図り、より良い事業推進に努めてゆきます。



会員の状況

平成23年4月1日現在の会員数は、172名。

年齢	男性	女性	計	構成比(%)
60～64歳	42	12	54	31.40
65～69歳	40	14	54	31.40
70～74歳	28	9	37	21.50
75～79歳	20	2	22	12.79
80歳以上	5	0	5	2.91
計	135	37	172	100.00

平均年齢 68.7歳 (男性68.5歳・女性67.5歳)

高年齢者 84歳

みんなの広場

災害による心の触れ合い

根本 義一 東日本大震災に多くの方々が被災されました。この度の、東日本大震災に多くの方々が被災されました。

ここに心からお見舞い申し上げます。この震災は、生涯に有るか無いのかの出来ごとと思います。

三月十一日、郡山市富久山の国道四号線を走行中に信号で停車した折、地鳴りと共に地揺れが始まわり道路わきの建物の壁面が崩れ、人々が外に出てうずくまっています。

桜通りは、歩道の地盤沈下により歩行者と車両が混雑し通行不良となっていました。会社に戻ると机上の物品が雑然と落下したり異動したり凄い状態となり停電、断水、給油停止などの情報の回復と共に、東北関東地区的地震、津波、原発事故の被災に対し復興の困難さが計り知れません。

今後は、各種団体及び、青年、壮年、シルバーの協力の基、仕事への就労と、仕事を作る起業を志す人ととの触れ合いを大切に、希望と夢を持てるシルバー人材センターに発展させることを希望いたします。



災害による心の触れ合い

釣行記

高橋 正晴



新緑のまばゆい日、N市にあるJ渓谷に岩魚、山女釣りに行く事にした。

ここに心からお見舞い申し上げます。

この震災は、生涯に有るか無いのかの出来ごとと思います。

天気も良く外気温も高く絶好の釣り日和です。車に道具を積み、釣果を期待して出発した。一時間程度で渓谷に到着し、準備をして川に入つて見てびっくりしたのは、きれいな水なのにごみの量が多いこと楽しみも半減、こんな渓谷にはたしてきれいな水に棲むという岩魚等がいるのかと疑問に思われた。

ごみの八割は、人工ごみでありペットボトル、ジュース、コーヒー缶等が散乱し景観は台無しになつてゐる。渓流釣りの楽しみは周りの景色と引き立つて、上流に行くごみは減るのかと思ってましたが全然変わりません。

四時間の予定を一時間半で山女二〇センチ三匹を上げて岐路につきました。

良い渓谷なのにごみが多い。釣人の皆さん・釣り場を汚せば、釣が出来なくなると思います、地域を汚さない、ごみは是非とも持ち帰ります。

表彰

社団法人本宮市シルバーカー人材センター表彰規程
第一条に基づき、十年就業の模範会員の一般表彰及びセンター振興に貢献した特別表彰を次の会員に贈呈いたしました。

◎特別表彰（役員退任）
久間木 俊二 理事
(理事・監事を歴任)

◎会員表彰
(会員十年以上継続)

星野 昭三 本宮第一班(本宮北)

石川 達意 本宮第三班(高木)

菅野 軍二 本宮第五班(青田)

伊藤 三郎 白沢第二班(糠沢)

渡辺 代津 白沢第三班(白岩)

会員互助会だより

会員互助会 平成二十一年度 事業報告

当会員互助会の趣旨に基づき、会員相互の親睦交流と就業における安全意識の高揚に努め、安心して就業できる環境づくりを継続して推進する。

一、事業
(一) 会員親睦会交流実行委員会開催 協議事項
①会員親睦交流会等の実施について

(二) 安全標語 入選者の記念品を互助会から支出

(三) 会員親睦交流会等の実施
感謝の集い(会津若松方面) 十月二十八日 二十四名参加

一泊親睦旅行(新潟方面) 十一月八日~九日 十五名参加
(四) 奉仕活動の実施
市内清掃作業(みずいろ公園・白沢老人福祉C)
互助会よりお茶)

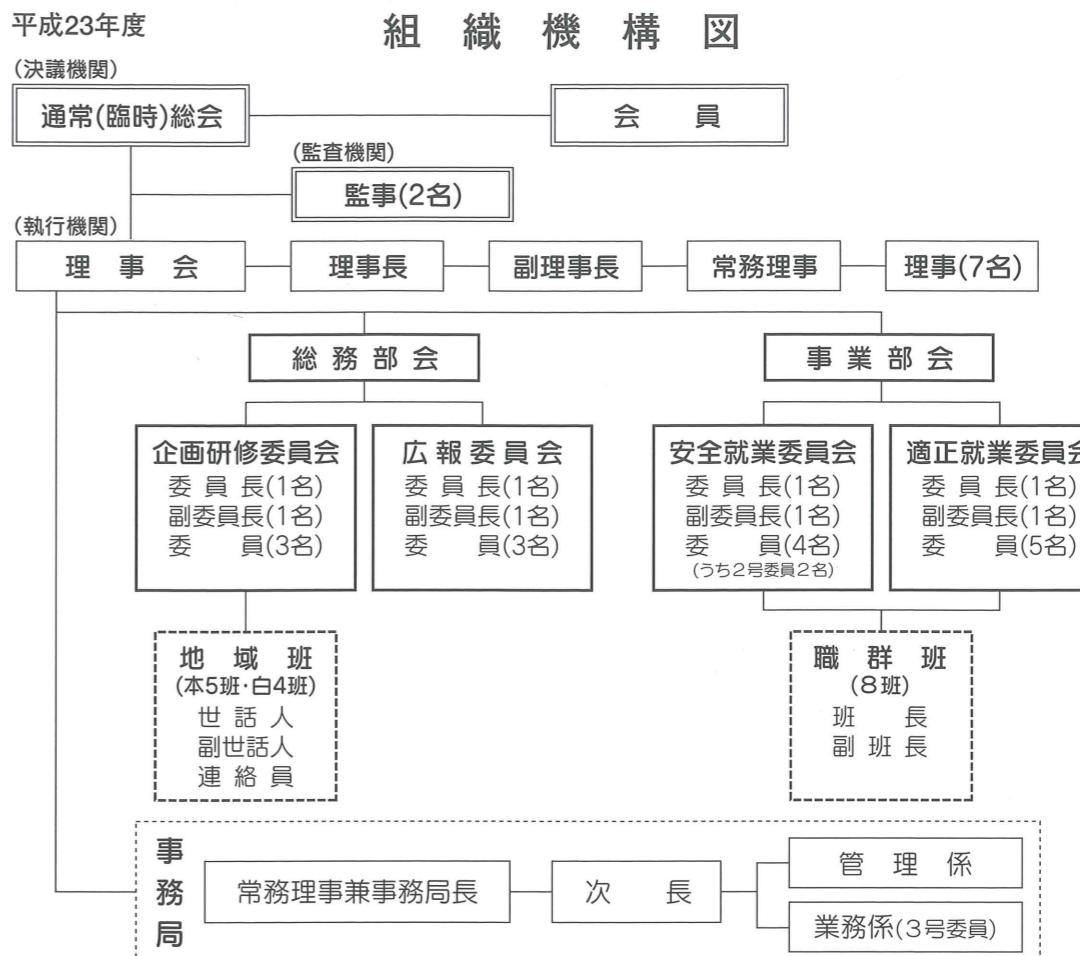
(五) 安全就業の推進
交通安全講習会 五月二十七日 六十五名参加

作業機械取扱講習会 七月十七日 四十五名参加
安全祈願祭 一月二十一日 十五名参加
剪定講習会 一月二十七日~二月四日 四回 十二名参加
(各講習会等の参加会員へ)

二、慶弔関係
①会員一名に見舞い



組織機構図



安全就業委員会

〔安全就業委員会の責務〕

- 会員の健康安全実施計画の調整に関すること
- 会員の就業上の事故分析と事故防止対策の樹立に関すること
- 安全講習会の実施に関すること
- その他安全対策に必要な事項

委員5名	委員長・遠藤正志(本五)
副委員長・三瓶三子(白四)	
委員・國分幹夫(白二)	
委員・西山秀樹(本五)	
委員・渡辺功(白二)	

委員2名	委員長・菊地正光(本三)
副委員長・三瓶一二	
委員・佐藤正幸(白二)	
委員・遠藤政二(白四)	
委員・荒川正明(白二)	

三号委員・矢吹政雄(業務主任)	委員長・遠藤正光(本三)
二号委員・高橋一二	

二号委員・遠藤政二(白四)	委員長・遠藤正光(本三)
一号委員・高橋一二	

一号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
二号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

三号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
二号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

三号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
二号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

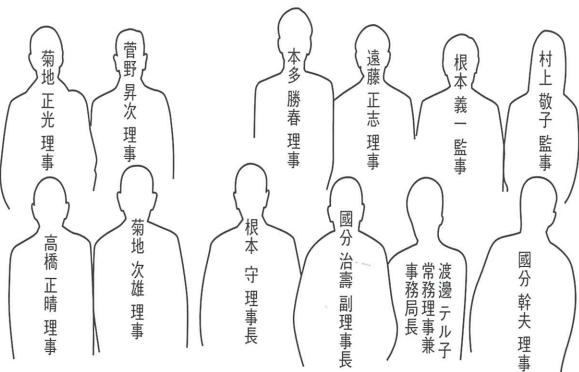
二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)
三号委員・遠藤正幸(白二)	

二号委員・遠藤正幸(白二)	委員長・遠藤正光(本三)

<tbl_r cells="2" ix="1" maxcspan

役員紹介



新会員加入者名

22年11月から23年5月

佐藤チイ子	本宮第四班
佐藤 未雄	本宮第二班
遠藤 信一	本宮第五班
佐久間宗雄	本宮第三班
橋本 好弘	白沢第五班
武藤 武	本宮第一班
奥山 英雄	本宮第一班
本田 菅野	本宮第一班
大内 米子	本宮第一班
坂上 初子	本宮第一班
岸波ハツコ	本宮第五班
猪平 金美	白沢第一班
幸田 盛明	白沢第三班
渡辺 勝三	白沢第一班
桜木 治巳	本宮第一班
菊地 善三	本宮第一班
小杉新太郎	白沢第一班
石橋 良一	白沢第四班
遠藤 正和	本宮第二班
志賀 隆次	本宮第二班
佐藤 強三	本宮第一班
丸山ツキ子	本宮第一班

会員の皆さんに、常日頃の安全就業をお願いしております。しかし、残念ながら、二十二年度は、傷害事故の軽傷四件、損害事故一件、物損事故一件が発生いたしました。

本年は、会員の安全就業のための、一月二十一日、安達太良神社において、「安全就業祈願祭」を理事、監事、各委員会、職群班正副班長の参加により、無事故をお祈りいたしました。

太良神社において、「安全就業祈願祭」を理事、監事、各委員会、職群班正副班長の参加により、無事故をお祈りいたしました。

会員の皆さんに、常日頃の安全就業をお願いしております。

この度の東日本大震災においては、未曾有の被害に見舞われ、会員の方々にも被害を受けられた方も居り、お見舞い申し上げます。

また、福島県民においては、原発事故、風評被害と目に見えない恐怖といつ終息するかわからない不安の日々を過ごされている事と思います。

今回の災害復興のため、会員全員による「義援金活動」を行ないました。総額で九四〇,〇〇〇円が集まり、社団法人福島県シルバーパートナーラン合会に送りました。

がんばろう福島、早急な復旧、復興と安心安全に過ごせる生活が戻りますよう切に望みます。

新緑も一層深みを増し、野外作業も本番を迎えると共に仕事をされる会員の方々には、健康に充分注意されることをお願いします。

シルバーだよりも三年目に入り広報委員一名が新たに入れ替わりました。

紙面をとおして知りたい情報、会員活動の中での楽しみ、趣味、意見等を掲載して行きますので、会員皆さんの投稿をお待ちしております。

安全就業 祈願祭

編集後記



東日本大震災
復興支援金
94,000円
(会員176名の協力金)

* 広報委員会 *

委員	委員	委員	委員長	菊地
員	員	員	副委員長	川名
渡辺	榎戸	本多	本多	次雄
和彦	啓子	勝春	勝春	力